アイリス Letter
保護者の皆様へ

2026 年 11 月 2 日発行
第３号
広島女学院中学高等学校

＜聖書のことば＞

「…自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか。」

ヘブライ人への手紙 12 章 1 節

10 月 1 日に、広島女学院は創立 140 周年を迎えました。

140 年という歴史には、ここで学んだ生徒たちの人生がありました。その成長を願い、祈り、支えた教職員の働きがありました。保護者や同窓生、教会、地域の方々の祈りと協力がありました。そして何よりも、人間の計画や力を超えて、この学院を導き、守り、用いてくださった神の恵みがありました。

一方で、広島女学院の歴史は、決して平坦なものではありませんでした。校舎を失った時代があり、社会の大きな変動の中で教育のあり方を問い直さなければならない時代もありました。そして 1945 年 8 月 6 日、一発の原子爆弾によって、教職員と生徒あわせて 350 余名の尊い命が奪われ、校舎も失われました。人間の言葉では到底言い表すことのできない悲しみと喪失です。

しかし、私たちは失われた命を覚え、その声を心に刻み、二度と同じ悲劇を繰り返してはならないという使命を担うことによって、再び歩み始めました。

ですから、広島女学院にとって、平和教育は教育活動の一分野ではありません。それは、この学院の歴史そのものから託された使命です。平和とは、単に争いがない状態ではありません。一人ひとりの命が尊ばれることです。弱い立場に置かれた人の声が聞かれることです。違いのある人々が排除されることなく、共に生きる道を探し続け、それを実現する営みを学ぶことです。その根底には、すべての人が神に愛され、神のかたちに造られた存在であるという、キリスト教の人間理解があります。

パレスチナやウクライナ、イラクなど、世界各地で激しい争いと殺戮が続く今日、私たち広島女学院の使命はますます問われています。

これからも強い信念を持ちつつ、走り続けようではありませんか。

（院長　三谷 高康）

校長室より

創立 140 周年を迎えて

2 学期が始まって、早いもので 2 か月が過ぎようとしています。朝夕には秋の深まりを感じるようになりました。10 月 1 日、広島女学院は創立 140 周年を迎えました。1886 年の創立以来、多くの方々に支えられ、今日まで歩んできました。140 年という長い歴史の中には、女学院で学び、教え、学校を支えてこられた一人ひとりの歩みがあります。

2 学期の始業礼拝では、1945 年 8 月 6 日の原爆で亡くなられた、本校の教員だった小黒園子先生についてお話ししました。園子先生の夫であり、その後、広島女学院の院長および大学の学長を務められた小黒薫先生は、妻と幼い娘を失った悲しみや、園子先生との日々を『園子追憶』に記しています。その復刻にあたり、薫先生の息子である小黒純氏が書かれた文章をご紹介します。原爆で亡くなられた方々にも、それぞれに家族があり、日々の暮らしがありました。ぜひ、お子様と一緒にお読みいただければと思います。

「『園子追憶』復刻に寄せて」
https://www.gendainoriron.jp/vol.42/rostrum/oguro.php

先日、同窓会の広島地区会にお招きいただき、現在の女学院の様子や、これからの教育についてお話ししました。その中で取り上げたことの一つが、「今の時代に、なぜ女子校なのか」という問いです。男女共学が増え、女性の社会進出も進んできました。しかし、私たちの社会には、今も性別による思い込みや、無意識のうちに子供たちの可能性を狭めてしまうような考え方があります。女子校では、リーダーを務めるのも、理科や数学に挑戦するのも、すべて女子生徒です。生徒たちには、性別による役割や得意・不得意を意識することなく、さまざまなことに挑戦し、自分の可能性を広げてほしいと思っています。また、探究活動や Peace Studies などを通して、自分の考えを持ち、異なる意見にも耳を傾け、他者とともに考え、行動する力を育てていきたいと考えています。

10 月上旬には、各学年で様々な行事が行われました。高校 2 年生は沖縄への修学旅行、中学 3 年生は大山チャレンジ合宿、中学 2 年生は長崎研修旅行、その他の学年では遠足を実施しました。教室を離れ、実際にその場を訪れ、さまざまなことを体験したり、仲間と過ごしたりする中でこそ得られるものがあります。思い通りにいかないことも含めて、一つ一つの体験が生徒たちの成長につながっていくことを願っています。

そして、11 月 3 日の文化祭に向けて、生徒たちは準備を進めています。今年のテーマは「花灯り」です。文化祭は、日ごろの活動の成果を発表するだけでなく、生徒たちが自分たちで考え、仲間と協力しながら一つのものをつくり上げる大切な場となっています。ぜひ学校にお越しいただき、生徒たちの姿をご覧いただければと思います。

140 年の歴史を大切にしながら、これからの女学院の教育についても考え、教職員とともに取り組んでまいります。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（校長　中村 紀子）

創立１４０周年創立記念礼拝

10 月 3 日（土）、広島女学院中学高等学校の三谷高康院長による創立記念礼拝がもたれました。中学では旧約聖書エステル記 4 章 13～14 節、高校では新約聖書マタイによる福音書 5 章 13～16 節をもとにお話しいただきました。

中学では、自分の命をかけて民族を救おうとした王妃エステルの姿や、青函連絡船の沈没事故で人々の救助にあたり、自らは命を落とされたディーン・リーパー宣教師のことが紹介されました。命を捧げることは容易ではありません。しかし、自分の時間を隣人のために使うことも、命を捧げることにつながるのではないかと問いかけられました。46 年間を女学院の教育に捧げたゲーンス先生の歩みも、その一つといえるでしょう。



高校では、ゲーンス先生が来日された当時のアメリカの社会状況について語られました。1860 年代、女性が就くことのできる職業は限られていました。その中で、異国で学校の設立に携わり、給与を得ながら存分に働くことのできる女性宣教師は、魅力ある職業でもありました。人は場所と機会を与えられれば、その能力を十分に発揮することができます。ゲーンス先生を特別な存在として神格化するのではなく、私たちと同じ一人の女性として、生涯をかけて教育に尽くされたからこそ、その歩みは尊敬に値するのだと語られました。

創立 140 周年を迎え、これまでの歩みを支えてくださった神様に感謝し、これからも神様とともに歩んでまいりたいと思います。

（宗教教育委員会）

中１バイブルデイ・遠足

○バイブルデイ

行事週間の中１は、10 月８日（木）の４限から６限にかけて「バイブルデイ」を行いました。日頃から、聖書の授業や毎日の礼拝で聖書をとおして自分を見つめ、様々なことについて思索する機会をもっていますが、意外と聖書をまとめて学ぶ機会が少ないものです。バイブルデイでは、ルカによる福音書を忠実に映画化したと言われる『ジーザス』を鑑賞し、イエス・キリストの生涯について学びました。



その後はゴスペル礼拝を献げました。約 50 名の生徒が演奏や歌、スタッフとして「君は愛されるためうまれた」「GOD BLESS YOU」というゴスペル曲を準備してくれ、中１の生徒や学年会の教員がみんなで讃美する礼拝の時間を持ちました。礼拝のお話で金先生は

普段とは違うクラス対抗の形式で、「偉大な愛：神様の愛」について話をしました。自分を見つめて思索に向かう日頃の礼拝と異なり、喜びと感謝をともにしながら讃美するという豊かで貴重な礼拝のときが与えられました。準備に関わった生徒の皆さん、主体的な姿勢で行事に参加した生徒の皆さんに感謝します。

（宗教教育委員会）

○中１遠足

中学１年生は平田観光農園を訪れ、果物狩りを楽しみました。気持ちのよい秋晴れのもと、クラスの枠を超えたグループで、それぞれ思い思いに過ごしました。

チケットと引き換えに果物を収穫するシステムでしたが、グループで協力して高級フルーツを分け合ったり、お目当ての果物を求めて農園内を元気に駆け回ったりと、生徒たちの生き生きとした姿をたくさん見ることができました。「これは家族へのお土産！」とうれしそうに果物を見せてくれる生徒もいました。ご家族の皆様にも、おいしく召し上がっていただけたでしょうか。



日々の忙しさを少し離れ、自然の中でゆったりと過ごすことができ、生徒たちにとってよいリフレッシュの機会となりました。

（中１学年会）

中２長崎研修旅行

初の宿泊行事となった長崎研修旅行。10/ 7（水）～9（金）の２泊３日で行ってきました！１学期から積み重ねた事前学習での学びを深めるべく、初日は平和公園にてみんなで準備した千羽鶴を手に「祈りのセレモニー」を実施、爆心地公園で当時の様子を想像しながら心をひとつにしてお祈りを捧げました。また、６歳で被爆した城臺美彌子さんのお話を聞き、当時の悲惨な状況や未来に向けてのメッセージを受け取りました。



２日目の市内研修では、永井隆博士の生涯について学び、カトリック浦上教会では協会員の山口さん冨永さんからキリシタン弾圧や浦上天主堂にまつわる貴重なお話をうかがいました。日本二十六聖人記念館や長崎歴史文化博物館も訪ね、外国との貿易により江戸時代の長崎が日本国内において先進的な都市であったという歴史的背景を知り、学びを更に深めることができました。グラバー園から見る夜景も美しかったですね😊最終日のハウステンボス散策を含め、全行程を通して好天に恵まれた充実の旅行となりました。

今回の大きな収穫は、多くの学びとともに「全員がお互いにちょっとずつ我慢して、気遣い合いながら過ごす」ことの大切さに生徒自身が気づき、実践できたことです。この集団行動での確かな成長を、今後の学校生活にも繋げていってくれることを願っています。

（中２学年会）

中３チャレンジ合宿





中学３年生は先発・後発に分かれてそれぞれ２泊３日で「チャレンジ合宿」のため鳥取県は大山町へ行ってきました。2024 年度まで行っていた恐羅漢山での「チャレンジキャンプ」に代わる行事として、今回が初めての実施でした。山の天気は変わりやすいと言われますが、10/6(火)～10(土)の５日間全体を通して雨が降ったのはほんのわずかで、アクティビティや登山を予定通り（予想以上の好天の中で！）行うことができました。９月の LHR での「チームビルディング活動」から本格的に始まり、合宿初日の「アドベンチャーラリー」ではお互いに感じたこと（いいこと・わるいこと全部）をしっかりと共有し、グループの関係性を高めた状態で大山登山に挑みました。一人で登るのとはまたちがった難しさがあったことでしょう。それでも、登頂を目標としてスタートした全員が、無事に山頂で最高の時間を過ごすことができました。しんどくても最後まで自分の足で歩ききりました！「もう無理！」「本当に無理！」と言っていたあなた！ 何とかなりましたね！！



非日常の中で自分自身と向き合い、縁あって一緒になったメンバーと「グループの最善を尽くす」ことを目標に、大きな壁を１つ乗り越えてくれたことを学年団一同誇りに思います。逆にこちらが励まされ、元気をもらいました。この大きな経験を今後の生活に生かしてくれるよう願っています。

心配事も多い中でこのような行事の運営を温かく見守ってくださった保護者の皆様にも、改めてお礼申し上げます。ご理解・ご協力ありがとうございました。

（中３学年会）



高１遠足

高１は 10 月９日（金）に宮島に行きました。フェリー乗り場前に現地集合ということで、きちんと全員が集合できるか不安でしたが、なんとか無事に間に合いフェリーにて宮島に向かいました。到着後、生徒たちはそれぞれ事前に計画したプランにしたがって、水族館をじっくりと回ったり、アイスクリームやグルメを楽しんだりと、思い思いに宮島を満喫していました。テスト前の息抜きができ、思い出に残る楽しい一日となりました。



（高１学年会）

高２沖縄修学旅行

10 月６日～９日、沖縄へ修学旅行に行ってまいりました。事前準備からこまごまと動いてくれた各クラスの旅行委員さんによる記事を紹介します。

【10 月６日】

行程の半分が飛行機やバスなどの移動の中、平和祈念公園に行き、比嘉さんの話を聞き、改めて命の大切さや戦争について考えを深める貴重な機会となりました。そしてホテルのバイキングが美味しすぎて、ついつい食べすぎて寝られなくなってしまうようなハプニングもありましたが、みんながとても素敵で実りのある１日を過ごすことができました。





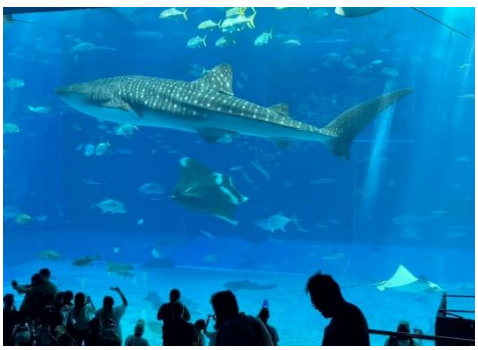
【10 月７日】

２日目は８つのグループに分かれて平和フィールドワークを行いました。私たちは沖縄一中鉄血勤皇隊についての資料館を訪問し、再度沖縄戦の悲惨さを実感しました。

また、私たちは実際に使われていたガマにも入りました。ガマの中は光がほとんど入らず真っ暗で、当時の戦争の激しさや恐怖を感じました。

【10 月８日】

午前中は美ら海水族館を見学し、巨大な水槽で悠々と泳ぐ様々な魚を見ることができました。午後は７つのコースに分かれて文化体験を行いました。体験を通して楽しみながら沖縄の文化に触れることができ、とても充実した１日となりました。



【10 月 9 日】

最終日は世界遺産である座喜味城跡を訪れ、重厚で美しいアーチ門や城壁の先に見える絶景を堪能しました。その後は賑やかな国際通りへと向かい、思い思いに買い物や街歩きを楽しんで素敵な思い出を作りました。沖縄の歴史の深さと明るい魅力を心ゆくまで満喫し、旅の締めくくりにふさわしい充実した一日となりました。





【まとめ】

今回の沖縄修学旅行では、前半の平和学習で沖縄の戦争の悲惨さや平和の大切さを学び、後半は沖縄の文化や自然に触れ、友人と楽しい思い出を作ることができました。学びと楽しさのどちらも詰まった最高の 4 日間でした。この経験をこれからの学校生活に活かしていきたいです。

（高２学年会）

高３遠足

10 月 9 日(金)、高校３年生はクラスごとに遠足へ出かけました。最初で最後のクラス遠足とあって、行き先を決める段階から、生徒たちは期待に胸を膨らませていました。春の遠足は雨でしたが、当日は天候にも恵まれ、受験勉強から離れてのびのびとリラックスしたひとときを過ごせたようです。準備期間は短かったものの、HR 委員の皆さんの尽力により、充実した一日となりました。





（高３学年会）

キルビントン・グラマースクール（オーストラリア）との交流

１．キルビントン・グラマースクール訪問（夏期海外生活体験研修）



夏休み中の２週間、中２生徒 16 名は、オーストラリア・メルボルン郊外に位置するキルビントン・グラマースクールでのホームステイ研修に参加しました。到着した当初は英語しか通じない環境や生活習慣の違いに戸惑っていましたが、徐々に発言や質問を自ら進んできるようになりました。現地校での授業をはじめ、メルボルン大学見学などの多くの深い学びと経験を得ることができました。８月７日には、広島や平和に関するプレゼンテーションを行いました。生徒達は準備してきたパワーポイントをみせながら、広島女学院の紹介や、原爆や広島の復興、女学院での平和学習について、英語で説明をしました。キルビントン生達はとても真剣に聞いてくださいました。その後、折鶴を一緒に折りました。

２週間というわずかな時間でしたが、生徒達は英語力の向上もさることながら、自らすすんで行動することの大切さ、異文化におけるコミュニケーションの取り方など、研修を通してたくさんのことを学びました。

２．キルビントン・グラマースクール来校

９月 19 日から 25 日まで、オーストラリアのキルビントン・グラマースクールより、10 名の生徒の皆さんと３名の先生方が女学院を訪問されました。今回の訪問はシルバーウィークをはさんだ日程となったため、ホストファミリーと過ごす時間を多く取ることのできた滞在となりました。生徒の皆さんのご家庭をはじめ、教員の協力もいただき、オーストラリアの学生にとっては忘れることのできない広島訪問になったことと思います。ホストファミリーを引き受けていただきました皆様に改めて感謝申し上げます。年間を通して海外からのお客様も増えておりますので、今後ともホストファミリーを引き受けていただけますご家庭がございましたら、ご協力よろしくお願いいたします。



（グローバル教育推進部）

中３進路発見合宿について

進路指導部では生徒の視野を広げるために、いろいろなプログラムを用意しています。今回は昨年度から実施し、今年で２回目となる中３進路発見合宿について報告をします。45 名の募集に対して、70 名を越える参加申込みがありました。希望者全員を連れて行きたかったのですが、実施するプログラムや施設などの都合のため、抽選で参加生徒を 45 名に絞ることとなりました。

協定校である武庫川女子大学の研修センターを会場とし、8/17(月)～8/19(水)の２泊３日で実施をしました。この合宿の最大の魅力は難関大学に通う OG と２泊３日を一緒に過ごすことです。今年は東北大学、大阪大学、神戸大学、九州大学に通う４人の OG が協

力をしてくれました。OG からは学習方法や進路決定までの過程、入試の仕組みや、今、通っている大学の魅力を聞かせてもらい、進路に関する知識や女学院での学習への取り組み方など学びました。この合宿は堅苦しいものではなく、講義形式で話を聞く場面もありますが、少人数のグループでの座談会形式や、屋外でバーベキューを OG と一緒に楽しみながら、会話を弾ませていきます。参加生徒たちは日々の学校生活の悩みや、学習の困りごとなどを OG に気楽に聞き、解決していきました。

合宿施設は神戸市北区にありますので、行き帰りの時間を利用して大学キャンパス見学を実施することもこの合宿の魅力の一つです。昨年度は神戸大学と関西学院大学を訪問しましたが、今年は京都大学と関西学院大学を訪問しました。どちらの大学も在籍する OG が駆けつけてくれ、大学案内や大学での学びについて教えてもらいました。京都大学では本校 OG で現在京都大学副学長であり、人と社会の未来研究院 院長・教授としてご活躍されている内田由紀子先生にも時間を取っていただき、貴重なお話を聞くことができました。

多くの OG の協力によって魅力ある３日間を過ごすことができました。参加生徒たちは合宿に行く前は具体的にどこの大学を目指すかなどは持ち合わせていませんでしたが、合宿後には志望大学の名前を具体的に挙げてくれるようになりました。今からコツコツ取り組めば、難関大学合格も難しくないことを OG の背中を見て感じてくれました。

進路指導部では「自分のやりたいことを見つけること」、「授業を大切に日々学習すること」、「高い目標を持つこと」、この３つを生徒たちには実践してもらいたいと考えています。この合宿もその一助となれば幸いです。

（進路指導部）

アイスの自動販売機

９月初め、食堂にアイスの自動販売機を設置していただきました。この取り組みは、中学五人委員会が昨年度から検討を重ね、学校に提案したことで実現したものです。設置にあたっては、利用ルールをはじめとする運用方法も、五人委員会が主体となって考えました。

自動販売機の設置には、二つの目的があります。一つ目は、「学校生活をより楽しく、魅力的で豊かなものにすること」です。授業や部活動に一生懸命取り組んだ後、友達と会話を楽しみながらアイスを食べる生徒の姿がよく見られます。毎日のように売り切れる商品が出るほど、多くの生徒に利用されています。

二つ目は、食堂・売店の利用者を増やすことです。近年、食堂・売店の利用者数や売上が減少しています。そこで、アイスの自動販売機をきっかけに、より多くの生徒に食堂・売店を利用してもらいたいと考えました。

今回の取り組みは、生徒たち自身が学校生活の課題を見つけ、よりよい学校づくりに向けて考え、提案したことで実現しました。これからも中学五人委員会では、生徒の声を生かしながら、学校生活をより楽しく充実したものにするための取り組みを進めていきます。

（中学生徒会顧問）

保健室だより（３）

文化祭に向けた準備や練習が続き、生徒たちもそれぞれの役割に責任をもって取り組んでいることと思います。クラスでの活動や発表の練習、係や委員会の仕事など、普段より忙しい日々を過ごしている生徒も多いのではないでしょうか。様々な学校行事が続く中で、知らず知らずのうちに疲れがたまっているかもしれません。充実した学校生活を送るためにも、日頃から体調を整えておくことが大切です。

また、これから気をつけたいのが、インフルエンザなどの感染症です。今年は例年より早い時期からインフルエンザの流行が始まっており、広島県でも 9 月に流行入りが発表されました。これから気温が低くなり、空気が乾燥する季節を迎えると、インフルエンザをはじめとする感染症がさらに広がりやすくなります。学校では多くの人が同じ教室で過ごし、様々な学校行事を通して人と接する機会も多いため、今のうちから感染症予防を意識することが重要です。外から帰ったときや食事の前には石けんで丁寧に手を洗い、せきやくしゃみが出る場合には「咳エチケット」を心がけるよう、ご家庭でもお声かけをお願いいたします。



加えて、感染症に負けない体をつくるためには、日頃の生活習慣を整えることも大切です。睡眠不足や朝食の欠食、食事の偏りなどが続くと、疲労が蓄積し、体調を崩しやすくなります。十分な睡眠と 1 日 3 食のバランスのよい食事を心がけ、規則正しい生活を送ることができるよう、ご家庭でもご配慮ください。

この時期は、朝晩と日中の気温差も大きく、体調の変化が現れやすくなります。「疲れがとれない」「朝すっきり起きられない」「食欲がない」など、普段と違う様子が見られる場合には、無理をさせず、早めに休養をとることが大切です。お子様の小さな変化にも目を向け、必要に応じて休養や受診につなげるなど、体調に合わせた対応をお願いいたします。

（保健室）

心の健康（３）

11 月。広島の木々の葉は色とりどりです。よく見ると、濃いみどり、薄みどり、紅いろ、朱色、黄色、こがね色、茶色、銀色とカラフルです。

色彩心理学によると、人間の色と色彩との間には非常に強い関係があるそうです。

そういえば、私たちも日頃、ちょっと明るい色の服を着て気分転換したり、部屋の鉢植えを飾って彩りを楽しんだりします。

また、食事のとき、野菜の色の取り合わせやお弁当の彩りに気配りして満足感を得ます。

このように人は身のまわりの色に影響されリラックスしたり元気になったりします。

11 月の文化祭が終わると、自然界が送ってくれる紅葉した秋の木々の葉を見、色を楽しんで、心が開放されていくのを味わってみましょう。自然の色は人に優しいので、心の健康を応援してくれます。



（カウンセラー）

教職員の動向



○９月に社会科の加藤弘輝先生に男児が誕生されました。
おめでとうございます。
ご成長の上に神様の豊かな祝福をお祈りします。

生徒の活躍

◇中高吹奏楽部
・第 67 回広島県吹奏楽コンクール
　中学校Ａ部門　銀賞
・第 67 回広島県吹奏楽コンクール
　高等学校Ａ部門　銀賞

◇中高マンドリン部
・令和８年度全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール
　優秀賞
　３年連続優秀賞
　文部科学省大臣賞　第１位

◇中学合唱部
・第 93 回 NHK 全国学校音楽コンクール 広島県コンクール 中学校の部 金賞
・第 65 回広島県合唱コンクール 中学生部門同声合唱の部 金賞
・第 93 回 NHK 全国学校音楽コンクール 中国ブロックコンクール 中学校の部 奨励賞
・第 65 回中国合唱コンクール 中学生部門同声合唱の部 金賞

◇中学水泳競技
　２－５　Ｈ．Ｈ
・令和８年度広島市中学校水泳競技選手権大会
　女子 100ｍ自由形　第３位
　女子４×100ｍメドレーリレー　第２位
　女子４×100ｍフリーリレー　第３位
・第 66 回広島県中学校水泳競技選手権大会
　女子４×100ｍフリーリレー　第３位
　女子４×100ｍメドレーリレー　第４位
・第６回広島県中学校新人大会
　水泳競技の部　女子４×50ｍメドレーリレー　第３位
　女子４×50ｍフリーリレー　第３位

◇高校音楽部
・第 93 回 NHK 全国学校音楽コンクール　広島県コンクール　銀賞
・第 65 回広島県合唱コンクール　銀賞



◇第 14 回広島韓国教育院 高校生韓国語スピーチ大会
　２－Ｂ　Ｍ．Ｓ　金賞

◇第 48 回広島県高等学校音楽コンクール　管弦打楽器部門
　２－Ｃ　Ｉ．Ａ　優秀賞

今月の聖句

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。　　（コリントの信徒への手紙二　4章18節）

以下は中学ホール礼拝、中学2年生による話の中で一部の抜粋です。

「私達は日頃、目に見えるものだけに目を奪われていることが多いです。テストの点数、人の表情、目に見える成果やプレゼント。もちろんそれらも大切です。しかし、目に見えないけど確かに存在する、大切なものがあります。「聖書袋」を通して顔も知らない後輩のために残された優しさ。ハンセン病療養所の入所者の方々へ送るクリスマスカードに込めた思い。これらはすべて目には見えません。しかし、目に見えないからこそ、人の心を深く揺さぶり、生かしていく力を持っています。女学院に入って何度も学んだ「隣人と共に生きていく」ということは、ただ目の前にいる友達や家族と仲良く過ごすことだけを意味することだけではありません。直接会うことができなくても、同じ時代、同じ世界に生きる誰かの存在のことも考えること、感じること。見えないところで支え合っている絆に感謝し、互いを思いやりながら歩むこと。それもまた、私達が世界中の隣人と「共に生きる」ための大切な姿勢なのだと思います。

私達は生きている中でたくさんの人と出会います。しかし同時に、私達が直接会うことのできない何千、何万人という人々の存在によっても、私達の日常は支えられています。毎日の日々を支えている誰か、そして私達の平和な学校生活を遠くから祈ってくれているだれか。顔も名前も知らないその人達とも、私達は目に見えないところで深くつながり、共に生きているのです。今日という日に、少し立ち止まって、自分の周りにある「目に見えない出会い」に目を向けてみませんか。自分が誰かから受け取ってきた、見えない優しさに感謝すること。そして今度は自分が、まだ見ぬ誰かや、直接会うことのできない遠くの誰かのために、温かい思いを届けていくこと。その積み重ねこそが、まだ見ぬ隣人とも「共に生きる」温かい世界を作っていくのだと思っています。

先ほど読み上げた聖書箇所は使徒パウロさんによる勧告です。使徒パウロさんは、イエス・キリストに直接会ったことがない人物です。イエス・キリストに出会ったことがないのにもかかわらず、キリスト教の根幹を担っている使徒パウロさんからの、「見えないものに目を注ぎ、見えないものは永遠に存続する」との言葉は、信仰面のみならず、今を生きる私たちへ送る招きのことばであると聖書の時間に学びました。

今日からの学校生活の中で、手にある聖書袋を見つめるとき、あるいは誰かを思って言葉を交わすとき、私達が目に見えない大きな絆の中で、すべての人と共に生かされていることを、どうぞ思い出してみてください。隣人と共に生きる。これは私たちにとって当たり前のような言葉かもしれませんが、これもまた私たちと女学院との出会いの「目に見えない実り」の一つではないでしょうか。今後も目に見えない出会いも大切にしながら共に歩みましょう。」

女学院では、目に見える成果だけでなく、見えない絆や隣人を想う大切さに目を注ぎながら、誰かと支え合う感謝と喜びを胸に、「共に生きる」女学院の姿が築かれております。

（聖書科K．C．）